

## 第四章 災 害

### 第一節 概 要

明浜町は、高知県足摺と宇和海を結ぶ、台風常襲地帯として、毎年五、六回台風が通過しているが、被害があるのは一、二度である。

近時海岸の護岸工事や、防災工事が進み、かつての昭和二〇年代のような、大被害は発生していない。

地震は、昭和二年一月二日に発生した南海地震には、海岸の地盤沈下や、一部建物の倒壊があったが、人畜の被害は出ていない。また昭和四三年八月二六日に発生した宇和島地震には（震度五）家屋の屋根瓦がずれたり、壁に亀裂が生じているが人畜には被害が生じていない。安政元年（一八五四）一月の大地震には、宇和島、吉田の両藩ともに、各地に津波が発生して大惨事となっている。本町にも家屋の倒壊や死傷者も発生している。このときの犠牲者の霊を弔うために、里人たちが俵津のうへの山の庵寺に、一字を建立してお地藏様を奉納してお祀りをしている。

本町の干ばつの歴史は古くからである。藩政時代のように物資の流通機構が制約されていた当時、一地方が干ばつの被害にあえば、即ちその地方は飢饉に結びつき、農漁民は塗炭の苦しみを味わわねばならなかった。

近時、大きな被害をもたらした干ばつは、昭和九年、同三三年、同四二年の干ばつであるが、特に四二年の大干ばつは全県的であって、南予地方では七〇年来のものであったと言われた。

### 第二節 南予地方における地震年代表

発 生 年	震 度	地 域 と 被 害 概 要
天武三年 (六四)	八・四	土佐、南海方面に、津波と共に被害甚大
慶安二年二月 (六四九)	七・一	宇和島域の石垣崩壊、吉田領内に大被害発生
宝永四年十月 (七〇七)	八・四	家屋倒壊、土佐の死者一、八四四人
明和六年 (七六)	七・四	宇和島に被害発生
安政元年 (八四)	七・〇	大洲藩、吉田藩に被害発生津波により町内に被害大であった
昭和三・三・三 (一九〇)	五・〇	南海地震、町内の海岸地盤沈下、家屋倒壊
昭和四・四・一 (一九六)	四・一	日向灘地震、町内家屋の屋根瓦がずれる
昭和四・八・六 (一九六)	五・〇	宇和島地震、市内の棚上の物品倒壊、ガラス破損大であった

第三節 台風、洪水、旱魃

〔明浜こぼれ話 愛媛県史 宇和島測候所〕

発生年月	西暦	災害別	被害状況
昭和三・九・二	一九二〇	台 風	県下死者八、家屋全壊二二五、堤防破損三七七、道路破損六四九
〃 三・七・三	一九二〇	豪 雨	田畑流失被害甚大
〃 五・五・六	一九二〇	霜 害	宇和町氷点下三・五度、被害一、三七六町歩
〃 七・六・四	一九二〇	豪 雨	南予地方の農作物に被害大
〃 六・七・一	一九二〇	台 風	記録的な暴風雨となり河川氾濫し大被害を受けた町内死者一名、家屋倒壊多し、松山より救援隊が来る
〃 三・八・六	一九二〇	豪 雨	松山氣象台創立以来の最強風力、町内死者一名家屋の倒壊多し、田畑の流失多被害甚大なり
〃 三・九・七	一九二〇	枕 崎 台 風	南予一帯に農作物の被害多し
〃 三・八・六	一九二〇	豪 雨	南予沿岸の被害甚大、日振島漁民出漁中の惨事で多数の死者が出る、通路寸断、渡岸決壊流注
〃 二・六・三	一九二〇	デラ 台 風	県下海陸ともに被害甚大
〃 二・七・三〇	一九二〇	グレイス 台 風	海岸地区に被害多し
〃 二・七・七	一九二〇	ヘリーソ 台 風	南予地方に突風あり漁船に被害多し
〃 二・八・三	一九二〇	アイダ 台 風	東予方面に被害あり、南予は少なし
〃 二・九・三	一九二〇	シェーン 台 風	高砂による被害が出る
〃 二・九・四	一九二〇	キジャ 台 風	豪雨による被害
〃 二・七・二	一九二〇	ケート 台 風	南予海岸部に農作物の被害多し
〃 二・八・三	一九二〇	早 魃	

発生年月	西暦	災害別	被害状況
寛文六年夏	一六六六	洪 水	田畑の損害甚大
延宝元年春	一六七〇	〃	田畑の流失多し
延宝元年春	一六七三	〃	〃
延宝四・七	一六七六	〃	〃
延宝七・〇	一六七九	〃	〃
延宝八・八・三	一七八〇	台 風	田畑の被害多し
享保六・七	一七三二	台 風	農作物被害多し
享保七・六	一七三三	暴 風	農作物被害多し
享保三	一七三六	大 飢 饉	享保六、七、八、九と四か年連続風雨、早魃、その後も災害により不作がつづく
享保四・八	一七三九	大 飢 饉	農作物に被害多し
宝暦四・九	一七五五	大 暴 風 雨	田畑の流失多し
安永五・七	一七七八	〃	農作物被害多し
天明三	一七八〇	水 害	〃
文化元年八	一八〇〇	〃	〃
文政三	一八二〇	〃	〃
天保四	一八三三	大 飢 饉	早魃、洪水にて飢民続出
明治三・〇・一	一八四〇	暴 風 雨	吉田領内藩雷一五七か所高砂により堤防決壊四国地方死者五三人
〃 七・八・三	一八四四	台 風	四日間連続豪雨
〃 一・二・五	一八五五	豪 雨	農作物被害多し
〃 三・九・二	一八六〇	洪 水	南予地方被害多し
〃 二・九・四	一八六二	台 風	六月二日より八月四日まで四日間雨量なし農作物被害多し
〃 三	一八六三	大 旱 魃	南予地方に被害多し
〃 六・八・三	一八六五	水	南予地方に被害多し

発生年月	西暦	災害別	被害状況
昭和六・〇・四	一九三一	ルース 台 風	我が国地上観測最大のものと言われた、町内家屋の倒壊、海岸線の決壊、道路寸断被害甚大 明浜町は災害救助法の適用を受ける
〃 七・七・三	一九三三	早 魃	南予地方に水騒動が各地に起こる
〃 一・一・三	一九三三	暴 風 雨	強い季節風となり、沿岸の被害が出る 電話、電灯線切断される
〃 元・九・六	一九三三	台 風	強風と高砂により被害甚大 町内海岸線決壊多し
〃 三・六・三	一九三三	豪 雨	農作物の被害多し
〃 三・九・六	一九三三	伊勢 湾 台 風	南予一帯に豪雪あり知事選挙に除雪車が出動する
〃 三・九・六	一九三三	第二 室 戸 台 風	全県の大早魃となり、上水道の断水が相づく、農作物とくに町内の柑橘の被害甚大、未曾有の早魃と言ふ
〃 一・一・六	一九三三	豪 雪	農地の流失多し
〃 三・七・三	一九三七	早 魃	道路の決壊多し
〃 八・八・五	一九三七	一 九 号 台 風	宇和島測候所開設以来の大雪
〃 七・三・三	一九三七	九 号 台 風	国道ともに通滞
〃 三・三・元	一九三〇	豪 雪	国相づく
〃 一・一・五	一九三一	豪 雪	昨年暮れより七日間に及ぶ豪雪で柑橘の被害甚大なり

発生年月	西暦	災害別	被害状況
明治元・八・六	一八六六	暴 風 雨	家屋樹木の倒壊多し
〃 三・九・三	一八六九	〃	南予地方に被害多し
〃 三・八・三	一八七〇	〃	南予地方に水害多し
〃 四・二・二	一八七二	大 雪	南予地方に大雪
〃 四・八・六	一八七九	台 風	宇和海方面被害甚大、南予漁民操業中死者二名 重傷二名
〃 四・九・三	一九〇二	〃	宇和島附近に台風上陸、南予地方被害甚大
大正二	一九一三	大 洪 水	田畑流失激甚
〃 三・七・	一九一四	〃	七月一日八月二日間三日間雨量なし農作物被害多し
〃 三・九・四	一九一四	台 風	高砂により被害多く、南予地方に水害甚大
〃 九・六・七	一九二〇	豪 雨	八幡浜、宇和島方面に集中被害
〃 九・八・五	一九二〇	台 風	南予地方に特に雨量多く、大津浪起り多数の死者を出す
〃 二・四・五	一九三三	〃	宇和島測候所業務開始
〃 三・七・二	一九三三	大 洪 水	河川の流出、堤防の決壊多し
昭和四・四・三	一九三九	霜 害	県下一円に降霜、宇和町氷点下二・五度
〃 四・七・	一九三九	早 魃	七月一日九月十九日七二日間雨量なし南予の甘薯に被害多し
〃 八・四・五	一九三三	台 風	南予地方に被害多し
〃 九・七・	一九三三	早 魃	七月二日八月三日雨量なく、農作物の被害甚大
〃 九・九・三	一九三三	室 戸 台 風	室戸測候所最低気圧六八四で世界新記録 県下の死者二八名 家屋全半壊一、五六三